

国分寺中学校区

【目指す子ども像】

- 学び合い高め合う子ども
- 主体的に人や社会に関わる子ども
- 心身共に健康で自分を大切にする子ども

【実践研究課題】

学び合いを深める聴く・伝える・関わる力の育成

各部会の取組

<学習指導部会 学力向上チーム>

【児童生徒の実態】

- ・課題にまじめに取り組める児童生徒が多い一方、進んで課題を見付け、取り組もうとする意欲には個人差がある。
- ・読書量に個人差が大きく、家庭での読書習慣が身に付いていない児童生徒がいる。

【部会のねらい】

- ・「家庭学習協調週間」「家読」の取組を通して、学習習慣を見直し、家庭学習の方法や習慣を身に付けられることができる。
- ・自分で課題を設定し、取り組むことで、達成感を味わい、主体的な学びへつなげることができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺中学校の実力テストの期間に合わせて、「家庭学習協調週間」を設定する。 ・「家庭学習協調週間」を小中同時に行うことで、家庭全体で取り組む機会とする。 ・「家読」を実施し、読書活動の活性化を図る。 ・自主学習のやり方について確認し、「自主学習ノート」の取組例を各校で、適宜、紹介する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習協調週間」を設定したことは、学習時間やメディア時間を確認したり、親子で生活習慣を見直したりするなど、学習意欲の向上に繋がった。 ・「家読」を長期休業中の実施にしたことで、時間的な余裕をもってじっくりと読書に取り組んでいた。また、親子で本の感想を交流するなど、普段読書の習慣がない児童が読書に取り組む機会になり、読書の大切さを実感している感想が多く見られた。 ・自主学習ノートの取組例を紹介したことで、他の学校ではどんな工夫をしているのかを知ることができた。中学校では「自学ノートコンテスト」を実施し、日頃の努力の成果を称えることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力の度合いに差があるため、計画を立てても、実践できている家庭ばかりではない。 ・「家読」について、提示の仕方を工夫しないと、学年のレベルに合っていない本を選ぶ児童生徒もいる。「家読」の実施を長期休業中にしたことで、中学3年生が高校受験に重なり、実施が難しいところがあった。